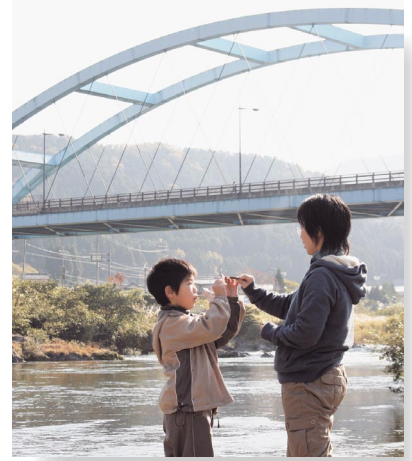


# 京丹波町総合計画

## 概要版



人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち  
さと  
丹波高原文化の郷 ● 京丹波



KYOTAMBA TOWN



## はじめに

丹波町、瑞穂町及び和知町の合併により誕生した京丹波町にとって初めての総合計画。平成19年3月に基本構想が定まり、10月には基本計画がまとまりました。3町合併から2年、いよいよ本格的に新たなまちづくりが動き出したと言えます。

さて、総合計画の基本構想で位置づけているように、京丹波町のまちづくりの中心（キーワード）は「人」です。

いまや地方の時代となり、今後は地域間競争が激化していきます。あわせて、健康や癒し、安らぎを求める志向の高まりとともに、真に豊かな農村環境が再評価される時代になってきています。こうした意味からも本町は、まちづくりの正念場を迎えており、これからは行政だけでなく町民の皆様、団体、民間事業者などが、ひとつの旗印のもとで一体となってまちの特性を生かした独自の高原文化をつくり出し、食や生活文化その他さまざまな分野において、本町の魅力をさらに高め、発信し、いかに本町へ「人」を呼び込むかが重要となってきます。もちろん、保健・福祉・子育て・教育などは、まちづくりの基礎的な分野として高度にあること、また、町民の皆様が健康で安心して暮らせるまちとすることは、まちづくりの大前提であると位置づけています。

また、多くの「人」、すなわち町民の皆様と共に進める「協働のまちづくり」がこれからのまちづくり推進のための重要な柱となります。総合計画の推進にあたっては、町民、団体、民間事業者などと行政との協働を基本としながら、町や地域が抱える共通の目標や課題に対し、相互理解と信頼を前提とし、共に考え協力する中で実践することが大切です。ひいては、それが町民の皆様の喜び、生きがい、誇りへとつながり、元気な人、元気な地域、さらには元気なまち「躍動するまち」へと発展し、町の自立や個性あるまちづくりが成り立っていくと思います。

わたしたち地方を取り巻く情勢は、今後さらに厳しさを増すと予想されます。総合計画をもとに財政状況を見極めながら実施計画を立て、さらには見直しを行いながら的確・適正に事業を推進し、将来目標像「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波」の実現、さらには、住民福祉の向上と本町の限りない発展のために、こん身の努力を尽くす決意でありますので、より一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、計画策定にお世話になりました町議会、町総合計画審議会、須知高等学校、アンケートを通じて貴重なご意見をいただきました多くの町民の皆様、各種団体の皆様に対し心からお礼申し上げ、総合計画書発刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。

平成20年2月

京丹波町長 松原茂樹

# 計画の構成

総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画で構成します。

## 基本構想

京丹波町がこれから進めるまちづくりの基本的な方向や主要なプロジェクトを定めます。

## 基本計画

基本構想を実現するための基本的かつ主要な施策の体系等を示すとともに、施策の展開に向けた基本方向等を定めます。

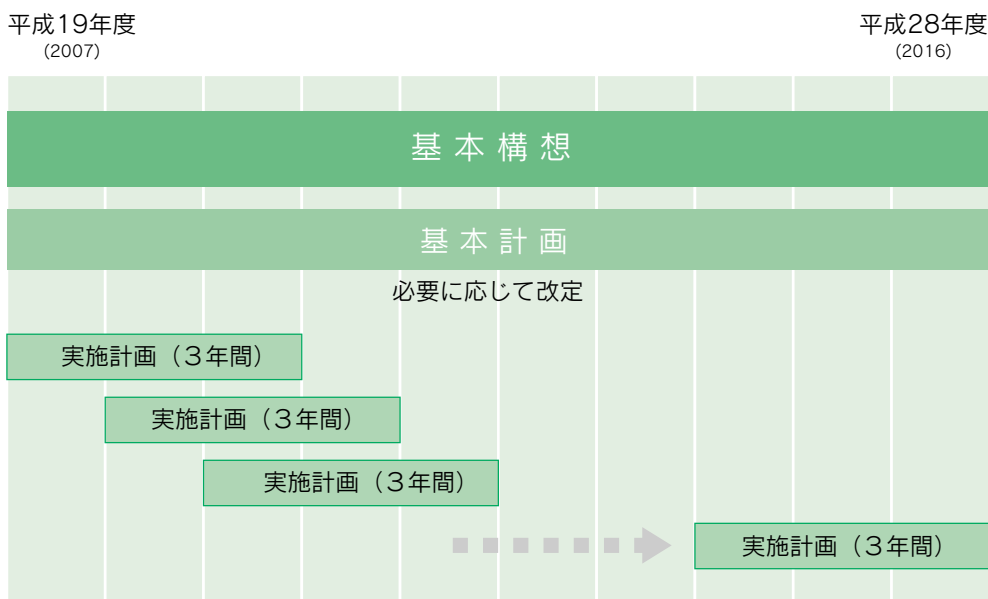
## 実施計画

基本構想及び基本計画に基づき実施する具体的な事業について、3カ年の年次計画として策定し、ローリング方式による進捗管理を行います。

# 目標年次

平成19年度から10年間の長期的な計画とし、平成28年度を目標年次とします。

なお、総合計画策定後において著しい社会経済情勢の変化等が生じた場合は、必要に応じて計画の改定を行うものとします。



※ローリング方式：社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、毎年定期的に計画等を見直していく方法をいう。

# 立地的特性

### ■ 由良川上流域の分水嶺地域

京丹波町は、京都府のほぼ中央部にあつて、由良川水系の最上流域、分水嶺<sup>れい</sup>地域に位置しています。町の面積は303.07平方キロメートル。そのうち約8割を森林が占めるほか、標高200～600メートルの山々の間に田園が広がる高原地帯や、由良川上流に沿って形成された河岸丘陵地帯があります。

### ■ 大都市近郊の自然環境豊かな農業地域

京丹波町は、京都、大阪、神戸等の大都市地域の郊外にあつて、それぞれからおおむね1時間という距離圏に位置しています。この立地特性を生かして、古くから京都、大阪、神戸等への食の供給地としての役割を果たしています。

# 自然的特性

### ■ 高原地帯

京丹波町は、丹波山地の中にあつて、比較的標高の低い高原状の地形に恵まれています。豊かな自然環境を持つ高原状の地形は、京阪神大都市周辺地域にあつては貴重であり、盆地が多い丹波地域の中でもきわだった特色となっています。

### ■ 気 候

京丹波町は、由良川上流部の丹波高原に位置することから、日本海側気候と内陸性気候をあわせ持つ気候特性を有しています。

# 歴史的背景

### ■ 古代の丹波

「丹波」は、古代は「たには」と呼ばれ、京都府の口丹波・中丹・丹後地域や兵庫県の丹波地域を含む広大な国を形成していました。この「たには」の国は、明治期に京都府と兵庫県に分割されましたが、「丹」の付く地名はそれぞれの地域に今も残されています。

京丹波町は、「たには」の国の南部に位置し、京都府の口丹波（現在の南丹地域）の一角を占めています。

### ■ 中世以降の歴史的特性

○京の都とかかわりながらも盆地や谷ではぐくまれた独自の文化を醸成

古くは都と深くかかわりながら発展してきましたが、都とは山でさえぎられ、丹波山地の中に数多くの小盆地が存在していることから、都や大都市地域とは異なる独自の文化圏を形成してきました。

○交通の要衝・結節点として発展

由良川流域と桂川流域との分水嶺にあつて、川の交通の結节点的な位置を占め、文化の交流拠点としての役割を果たしてきました。陸の交通では、古くから京の都と丹後や山陰地方を結ぶ山陰街道、大阪方面とを結ぶ山陰篠山街道の結節点に位置し、畿内文化圏と山陰文化圏の中継地帯となっていました。また、交通の要衝として街道沿いに宿場町等を発達させていました。

○特色ある農林産物の供給地として発展

古くから穀倉地帯として発展し、京の都や大阪等に農産物や林産物を供給してきました。

## ○地域に根づく伝統文化

地域の風土や長い歴史の中で培われ受け継がれてきた伝統文化が、町内の各地域で多くの人びとの手によって継承され息づいています。

## ■近年の動向

## ○工業の進出、住宅団地の開発

京阪神大都市の発展の影響を受けて、工業の進出や住宅団地の開発等が一部地域で進みましたが、地域全体としては、水資源の不足等もあってそれほど顕著に進展するには至っていません。このような中で、計画に基づいた新たな水源の確保により住宅団地への給水も始まっており、今後、住宅整備が進むことが予測されます。

## ○都市との交流活動による地域活性化

豊かな自然的・農村的環境を生かして、京阪神地域との交流による地域活性化対策を進めています。特に、安心・安全な農産物を道の駅や朝市等で販売する取組みは、町内各地で活発化しており、府内でも先進的な地域のひとつになっています。また、各種の交流拠点施設の整備にも積極的に取り組んでいます。

## めざす将来目標像

### 人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

京丹波町は丹波山地の高原地帯にあつて穏やかな気候風土に恵まれ、京阪神地域との歴史的・文化的なつながりの中で、さまざまなまちの特色が育まれています。とりわけ、京阪神地域に対しての食の供給地としての役割は大きく、京都、ひいては日本の食文化の発展に寄与してきた農山村地帯としての歴史は、現在に引き継がれ、他には求めがたい京丹波町の生活文化や独自の魅力を形づくっています。こうしたまちの性格を振り返ってみると、まさに、環境共生や健康へと志向を強める現代社会のニーズにこたえるものであるといえます。

このようなことから将来目標像は、京丹波町の風土や文化を底支えしている「丹波高原」を強調して打ち出します。

「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波」は、地域の独特の人情味や風情を守りながら、この地に暮らす人びとが誇りと生きがいを見つけ、その喜びを共に分かち合いながら、京丹波町に暮らすことの価値を高めるとともに、さまざまな交流から生まれる活力によって、新しい時代に向かって飛躍するまちをめざそうとするものです。

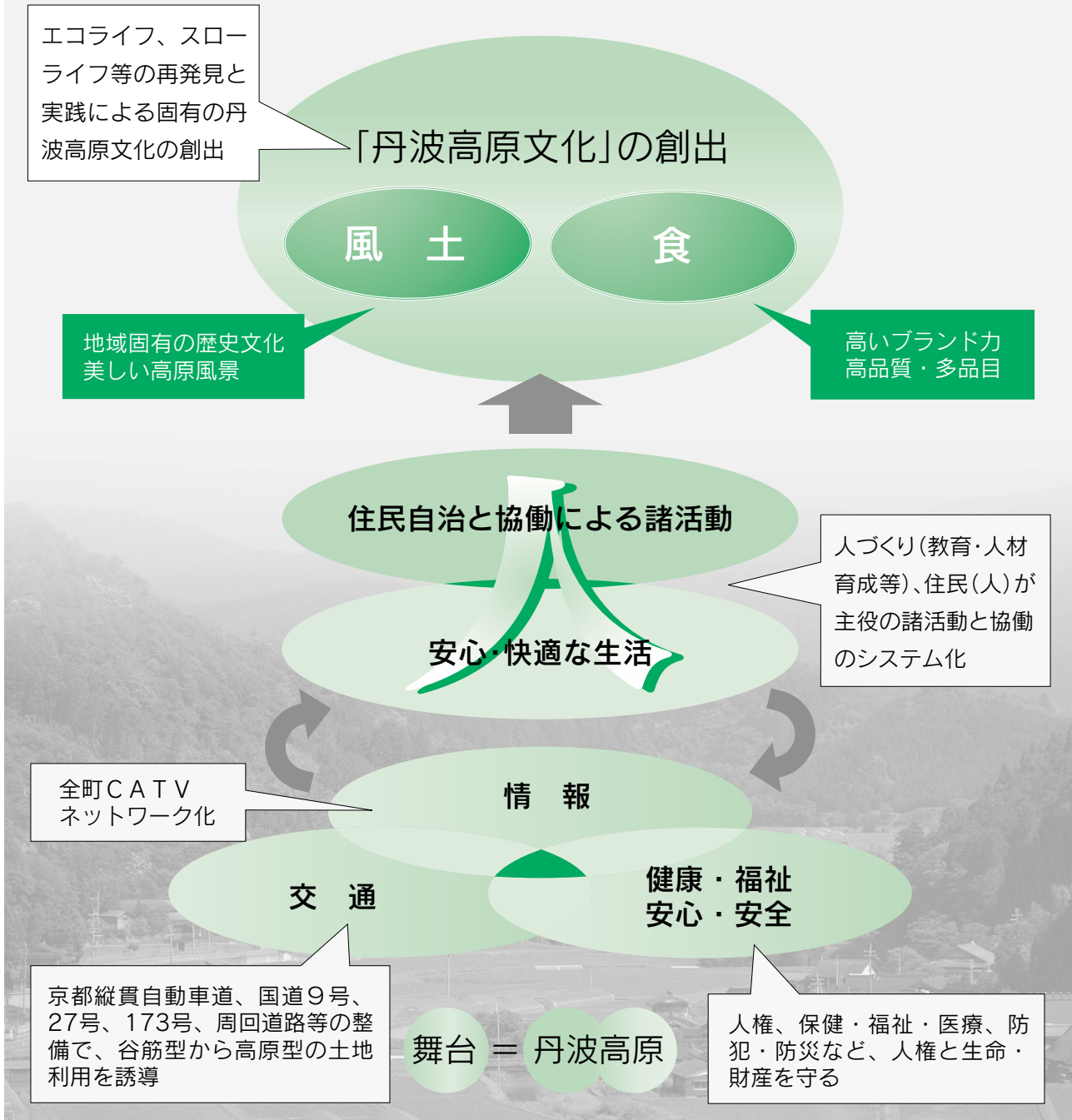
この新たな将来像の実現に向けて、その方向を示したのが、次の図です。

まちづくりの中心に人を位置づけ、人びとの生活の基礎となる交通や情報、健康・福祉、安心・安全等の基盤条件を整えることを大前提とし、安心して快適な環境の中で住民自治を育み、町民の間にエコライフやスローライフ等の要素の再発見と協働の精神で実践活動を進めていくことを基本とします。それらの実践活動の成果として、「風土」と「食」を基軸とした個性ある「丹波高原文化」の創出を図り、国内はもとより世界へもアピールできる京丹波町にしていこうとするものです。

「風土」は、美しい京丹波の高原風景をつくり出し、また、水と緑豊かな環境を創生・保全し、地域特有の個性ある魅力をつくっていきこうというねらい、「食」は、高いブランド力を持つ高品質・多品目の商品を企画開発し、多様な経路を通じて販売していくこと等により、京丹波町の経済的な基盤を強化していこうというねらいを込めています。

※**エコライフ**：環境に負荷をかけない、環境にやさしい生活のこと。  
 ※**スローライフ**：生活様式に関する思想の一つで、人工的・効率的でスピード感のある生活ではなく、自然と調和しながらゆったりと心豊かに送る生活様式のこと。

# 国内はもとより世界へもアピールできる 京丹波町の魅力づくり



## 将来人口フレーム

	現 況	目 標 (平成28年度)	将 来 (平成29年度以降)
総人口 (定住人口)	16,893	18,000	23,000
交流人口	1,000,000	1,300,000	1,500,000

# めざす地域構造

京丹波町がめざす地域構造は、これまで形成されてきた構造を基本としながら、次のような方向に強化・発展させることとします。

## 京丹波町全域で示す丹波高原ゾーンと環状軸による骨格構造の形成

**地**域全体を「丹波高原ゾーン」として位置づけます。

**丹**波高原ゾーンは、国道(9号・27号・173号)、整備が進められている京都縦貫自動車道等の幹線道路によって環状に形成される交通軸で一体的なものとなります。

## 環状軸上に町民サービスと都市との交流拠点となる「拠点」と「エリア」の配置

**町**の環状軸上に三つの地域拠点(須知・蒲生地区、桧山地区、本庄地区)を配置。このうち、須知・蒲生地区を京丹波町の地域中心拠点(核)として位置づけます。

**行**政、商業、保健・福祉、医療等の町民サービス機能や各種の交流機能等が数多く立地する須知・蒲生地区から桧山地区にかけての地域を、京丹波町の中心的な機能の集積を図る「丹波高原にぎわい交流エリア」として位置づけます。

**北**部の本庄地区を中心とし北部に広がる水、緑等の美しい自然が展開する地域を、豊かな環境の中で人と自然、人と人がふれあい交流する「水と緑のふれあい交流エリア」として位置づけます。

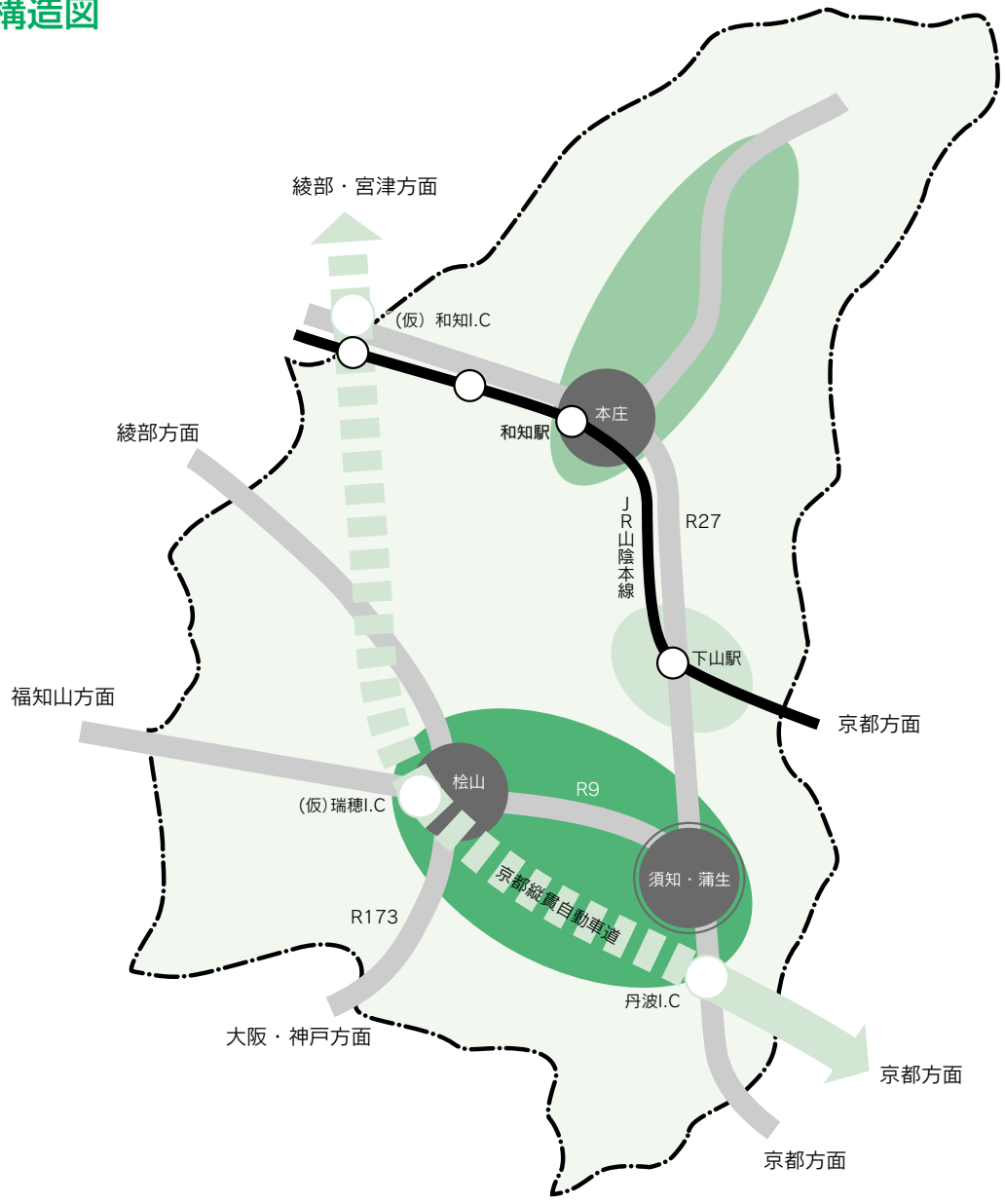
## 環状軸上に鉄道利用型のエントランスエリアの創出

**今**後の京丹波町の発展を考慮すると、都市との交流活動がますます重要になります。今後の交流活動は、団塊の世代を中心にして鉄道利用者も増加していくことが予想されることから、鉄道を活用した誘客戦略を展開します。

**京**都方面から「丹波高原文化の郷」への玄関口となる下山駅とその周辺を「丹波高原エントランスエリア」として位置づけ、丹波高原への玄関口にふさわしい地域としての整備を図ります。

**和**知駅とその周辺は、鉄道利用者と自動車利用者いずれもが集うことのできる地域拠点、さらには「水と緑の交流エリア」の核としてふさわしい地域としての整備を図ります。

# 地域構造図



	丹波高原ゾーン	緑豊かな高原と調和した多様な都市活動が展開されるゾーン
	丹波高原にぎわい交流エリア	行政、商業、医療・福祉等多様な都市機能が立地するとともに、豊かな自然環境等を生かした観光・レクリエーション等により多彩な交流が展開されるエリア
	丹波高原エントランスエリア	駅を中心に鉄道による丹波高原の玄関口としての展開を図っていくエリア
	水と緑のふれあい交流エリア	美しい自然環境の中で、人と自然、人と人がふれあう場として活用を図るゾーン
	地域拠点	住民の生活に密着した都市機能が集積する地域拠点
	地域中心拠点	町の中心的な拠点（核）
	地域内連携・交流軸	地域の生活や歴史・文化に密着した交流を促進し、各拠点との結びつきを深めつつ、町の一体性を高める道路による地域内連携・交流軸
	広域連携・交流軸	本町と周辺市町、京都、大阪などを相互に結び、多様な交流を育む広域連携・交流軸
	鉄道・駅	



# 主要プロジェクト

## 「丹波高原文化の郷」の創造・発信

京丹波町には、丹波ブランドに代表されるように、古くからの京の都との強い結びつきの中で培われ、京の生活文化・食文化と密接に結びついた、実体と歴史のある“丹波高原文化”が息づいています。これを内外に「丹波高原文化の郷」として発信していくため、次のような取組みを行います。

### 丹波高原四季の顔づくり

- 「丹波高原文化」のPR
- 高原らしさを醸し出す景観づくり

### 丹波高原都市づくり

- 丹波高原都市の中心市街地づくり
- 玄関口エリアの形成
- 地域産業の発展と美しい国土づくり

### 丹波高原食文化の第6次産業化

- 地域特産物等の生産の維持・発展、拡大
- 農林産物加工特産品の企画・開発
- 販売経路の拡大と戦略的販売の促進
- 生産～加工～流通・販売の連携強化による「京丹波高原ブランド」の創出
- 「京丹波高原ブランド」づくり推進体制の整備

### 丹波高原文化づくり

- 伝統的な祭りや行催事・伝統芸能等の保全・継承
- 新しい「丹波高原文化」の創出

※第6次産業：農林作物等の生産（第1次）だけでなく、加工（第2次）、販売（第3次）までを一体的に取り組む新たな産業形態を例えたもの。「第1次産業×第2次産業×第3次産業＝第6次産業」の算式を由来としている。

## ぐるりと結ぶ「丹波高原文化の郷」周遊ルートの形成

合併し京丹波町となったことで、旧3町それぞれではつくり出せなかった“丹波高原文化”を大きく打ち出すことができるようになりました。

そのような中で、町内を周回できるルートの整備は、町民の生活利便性と町の一体感の醸成、また、観光面でも重要な位置を占めています。

そこで、現在進められている国道27号下山バイパスの早期完成、また、京都縦貫自動車道の延伸についての働きかけを強めるとともに、これら全体として「丹波高原文化の郷」周遊ルートとしての位置づけを行い、ネットワーク化を推進します。

### 丹波高原周遊ルートづくり

- 町内周遊ルートの形成
- 「丹波高原文化の郷」周遊ルートの一体的な景観づくり

### 丹波高原地域幹線ルートづくり

- 国道27号下山バイパスの整備促進と沿道地域の活用
- 京都縦貫自動車道の延伸促進とIC周辺の地域づくり

## 人がつながり、丹波高原にひろがる元気なまちづくり

だれもが京丹波町に誇りと愛着を感じ、町政や地域づくりにかかわりを持ちながら、町民としての一体感を意識しながら生活ができる地域づくりを進めます。そして、町民が自ら自信と誇りを持って健康で心豊かに生活できるよう、人材の育成をはじめ、コミュニケーション基盤の充実と町民のふれあい・参加・協働の機会拡充を図ります。

### 企画・マネジメント組織づくり

- 企画・マネジメントに携わるチームの編成
- 協働のまちづくりの展開
- 次代を担う人づくり

### 情報ネットワークづくり

- 情報ネットワークの整備による町の一体化
- 情報共有によるまちづくりの推進

### 定住環境づくり

- 水資源開発による安定的な定住基盤の確立
- 就業環境の強化
- 定住のための受け入れ態勢づくり
- 健康・福祉のまちの確立
- 安心・安全な暮らしの確保

# 基本構想の実現に向けて

## 1

### 町民、団体、民間事業者等と行政との協働によるまちづくりの推進

京丹波町のこれからのまちづくりは、町民、団体、民間事業者等と行政との協働を基本とします。町や地域が抱える共通の目標や課題に対し、町民、団体、民間事業者等と行政などが相互理解と信頼を前提とし、対等な関係に基づき、共に考え互いに協力し合って実践していきます。

## 2

### 地域マネジメント組織による実践

総合計画を推進するにあたって、主要プロジェクトに掲げた体制「総合的にプロデュースするチーム」が担い果たすべき役割は非常に重要です。町(庁)内外の知恵と経験を集めて、段階ごとのねらいを明確にした取組みを進めます。

## 3

### 効率的な行財政運営と協働による地域経営

総合計画に基づく施策を計画的に推進するため、行財政改革の徹底と町職員の資質の向上を基本とし、評価と継続的な見直しを重視したCAPDサイクル「Check／評価」→「Action／改善」→「Plan／計画」→「Do／実行」を導入した効率的な行財政運営、さらには協働による地域経営をめざします。

特に主要プロジェクトは、今後の京丹波町の特色づくりに寄与するとともに、地域経済力を高め町民生活を豊かにする上で先導的な役割を果たすものであることから、それにかかわる施策の実現に特別の配慮を行います。

なお、施策の推進にあたっては、町民、団体、民間事業者等との協働を重視することから、これに向けた体制を整えていきます。あわせて、町職員のまちづくりへの参画を促進します。

※CAPDサイクル：Check（評価）、Action（改善）、Plan（計画）、Do（実行）の頭文字を並べたもので、「評価→改善→計画→実行」という過程を用いて、次の施策、事業等に生かすといった継続的な活動をいう。民間企業の経営活動では、PDCAサイクルが一般的。

# まちづくりの基本方針

基本構想に掲げた京丹波町の将来目標像「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷●京丹波」の実現に向けて、次の六つの基本方針のもとで総合的かつ体系的な施策の展開を図ります。

### 基本方針1

#### ～ 人材 ～ 未来をひらく人を育てます

「まちづくりは人づくり」の考えのもと、「丹波高原文化の郷」の未来をひらく人を育てていきます。次代を担う子どもたちが、健やかでたくましい心と体をはぐくむことができるように、また、生涯を通じた学びの基礎を身につけることができるように、知育・徳育・体育・食育の調和がとれた質の高い教育を推進します。特に、地域の多彩な人材や歴史・文化、自然など豊富な地域資源を生かした体験学習の充実を図ることで、生まれ育った京丹波の地に愛着を感じ、誇りを持つ子どもを育て、ひいては、将来のまちづくりを担う人材が育つことを期待します。

また、人権尊重の取組みをはじめ、生涯学習やスポーツ・レクリエーション活動等の振興を図ることで、町民だれもが生涯にわたって生きがいを感じながらともに暮らすことができる地域づくりを進め、対話とふれあいの中で、すべての町民が主役となる特色ある地域文化の醸成を図ります。

### 基本方針2

#### ～ やすらぎ ～

#### 人と人、みんなが支えあう、 安心・安全なまちをつくります

すべての町民による「ふれあい」と「支えあい」を基礎とした、安全でやすらぎのある暮らしができるまちづくりを進めます。

町民の生命と安心の確保を担い、疾病予防対策と健康増進を図る「保健・医療」、さまざまな生活課題に対応する福祉サービスの利用保障に向けた「福祉」、町民の生命や財産を守るための「防災、交通安全等」のそれぞれの分野において、町民の安心・安全を確保するための施策を推進します。特に、子どもは「地域の宝」、さらには「本町の宝」として、町民挙げて子どもを見守り、子育てを支えていきます。

### 基本方針3

#### ～ 魅力 ～ 魅力ある産業をはぐくみます

京丹波町の特性や地域資源を最大限に生かした魅力ある産業をはぐくみます。地域の産業を自然・歴史・文化資源のネットワーク化と連携させていくことは、「丹波高原文化の郷」づくりの重要な基盤のひとつと考えます。そのため、ブランドの確立等による農林水産業の育成・振興と地域生活に根ざした商工業の活性化、都市との交流の活発化などを図ることで、本町の自然やわたしたちの暮らしになじみ、かつ、全国・世界へとアピールできる新しい地域産業の形成をめざします。

## 基本方針4

### ～ 潤い ～ 豊かで美しい環境を守ります

丹波高原に広がる豊かで美しい自然・生活環境を良好な状態で保全し、自然を愛し自然と共に生きる緑豊かな農山村として魅力を高めながら次代へ引き継いでいきます。施策の推進にあたっては、身近な自然・生活環境の問題が地球環境の問題にまで結びついていることを意識して取り組む必要があります。その上で「丹波高原文化の郷」にふさわしいまちとなるような景観づくり、省資源・再利用・再資源化による資源循環型社会の構築、ごみの不法投棄防止・環境美化など多様な取組みを展開していきます。

## 基本方針5

### ～ にぎわい ～ 人が暮らす、集う、定住・交流の基盤をつくります

働く場の確保や社会基盤等の整備を推進し、人びとが暮らし、集うための安定した定住・交流の基盤を築きます。そのため、定住基盤となる企業誘致や住宅整備、旧来からの懸案であった水資源の確保と上水道の安定供給、下水処理施設の整備、京都縦貫自動車道の整備とあわせた新たな道路・交通体系の確立、情報施設の一元化等を推進し、定住人口とともに交流人口の増加をめざします。

## 基本方針6

### ～ 地域力 ～ まちづくりのしくみをつくり、強めます

町民、団体、民間事業者や行政等による協働のまちづくりを効果的に推進するための仕組みをつくり、自立した力強い行政運営とその充実・推進により「丹波高原文化の郷」の魅力を高めていきます。そのため、開かれた、わかりやすい行政など、町民が一体感や連帯感をはぐくみ、誇りと愛着を持ってまちづくりに参画できる環境をつくるとともに、行政運営の効果・効率性を高めていきます。

コミュニティ(地域社会)は、町民のさまざまな活動を支える基礎として重要なものであるため、地域自治、防災、環境美化などの地域活動が活発に行われるように促進を図ります。

# 計画の構成

## 計画策定の趣旨

- 3町合併後の新たなまちづくり
- 時代的变化への対応
  - 社会経済の成熟化
  - 分権時代の到来
  - 日本文化のルーツ・ふるさと探し
  - 少子高齢化と人口減少時代の到来
  - その他の時代潮流の進展
  - 地域における広域交通環境の変化

## 京丹波町の特性

- 立地的特性
  - 由良川上流域の分水嶺地域
  - 大都市近郊の自然環境豊かな農業地域
- 自然的特性
  - 高原地帯
  - 日本海側気候・内陸性気候
- 歴史的背景
  - 独自の文化を醸成
  - 交通の要衝・結節点として発展
  - 特色ある農林産物の供給地
  - 地域に根づく伝統文化
  - 工業の進出、住宅団地の開発
  - 都市との交流活動による地域活性化
- 町の沿革・3町合併の経緯
- 町の概況
  - 人口動向
  - 人口の流入出の動向
  - 就業構造
  - 観光入込客数
  - 観光・交流の取組み
- まちづくりに対する住民の意向
  - 住民アンケート調査結果
  - 京丹波町の魅力
  - 今後のまちづくりの主要な取組み 等

## まちづくりの基本的な留意事項

地域の立地特性を十分に生かす

京丹波町全体としてのまとまりや連携の強化

地域基盤のネットワークの強化

協働のまちづくりの推進

## 将来目標像

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷 ● 京丹波

## 主要プロジェクト

- 「丹波高原文化の郷」の創造・発信
- ぐるりと結ぶ「丹波高原文化の郷」周遊ルートの形成
- 人がつながり、丹波高原にひろがる元気なまちづくり

## めざす地域構造

- 京丹波町全域  
丹波高原ゾーン
- 地域拠点の配置  
須知・蒲生地区（中心拠点）  
桧山地区  
本庄地区
- エリアの配置  
丹波高原にぎわい交流エリア  
水と緑のふれあい交流エリア  
丹波高原エントランスエリア

## まちづくりの基本方針

### ～ 人材 ～

未来をひらく人を育てます

### ～ やすらぎ ～

人と人、みんなが支えあう、  
安心・安全なまちをつくります

### ～ 魅力 ～

魅力ある産業をはぐくみます

### ～ 潤い ～

豊かで美しい環境を守ります

### ～ にぎわい ～

人が暮らす、集う、定住・交流の基盤をつくります

### ～ 地域力 ～

まちづくりのしくみをつくり、強めます

# 施策の大綱

## 人材

未来をひらく人を育てます

### 1 人権尊重

- 人権意識の高揚と人権擁護
- 男女共同参画の社会づくり

### 2 幼児・学校教育

- 教育環境の改善
  - 幼稚園・学校施設の整備・充実
  - 教育を担う人材の育成
  - 教育相談の充実
  - 児童・生徒の安心・安全の確保
  - 特別支援教育の充実
  - 小・中学校、高校等との連携
- 教育内容の充実
  - 基礎学力向上対策の推進
  - 多彩な教育の展開
    - 人権・道徳教育の充実
    - 情報教育の推進
    - 国際理解教育の推進
    - 地域資源を生かした教育の推進
    - 福祉教育の充実
- 学校給食の充実と食育の推進
  - 学校給食の充実
  - 食育の推進
- 就学支援の推進
  - 就学援助の実施
  - 通学援助の実施
- 家庭・地域教育の充実
  - 家庭教育の推進
  - 地域教育の充実

### 3 生涯学習・スポーツ・レクリエーション

- 生涯学習の推進
  - 多彩な学習機会の充実と創出
  - 生涯学習団体等の育成と活動の促進・支援
  - 地域型生涯学習の推進
  - 生涯学習施設の充実・連携
- スポーツ・レクリエーションの振興
  - 各種スポーツ・レクリエーション機会の充実と創出
  - スポーツ団体・クラブ等の育成と活動の促進
  - スポーツ・レクリエーション施設の充実
- リーダー・コーディネーターの育成
  - リーダーの育成
  - コーディネーターの育成

### 4 子ども・青少年の健全育成

- 健全育成のための風土づくり
  - 社会環境の健全化
  - 安心・安全な育成環境づくり
- 健全育成活動の促進・支援
  - 健全育成組織の維持・強化
  - 活躍の場づくり

### 5 文化

- 歴史的文化の保存・活用
  - 伝統文化・文化財の保存・活用
  - 生活文化資源等の保存・活用
- 文化芸術活動の振興
  - 文化芸術活動の促進・支援
  - 文化・芸術に親しむ機会の提供

### 6 国際・地域間交流

- 他地域との交流の推進
  - 国際交流の推進
  - 都市等との交流の推進
- 町内地域間交流の推進・促進

※特別支援教育：これまで特殊教育の対象外であった学習障がい（LD）・注意欠陥多動性障がい（ADHD）・アスペルガー症候群なども含めて障がいのある児童・生徒に対して、その一人ひとりの特性などを把握し、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行う教育。



# やすらぎ

人と人、みんなが支えあう、安心・安全なまちをつくります

## 1 健康づくり

### ● 町民の健康づくり運動の促進

- 町民主体の健康づくり
- 健康づくりのための知識普及と意識啓発

### ● 疾病の予防と早期発見・早期対応の強化

- 健(検)診事業の充実と受診率の向上
- 健康相談・指導と健康教育の充実

### ● 母子保健・介護予防の充実

- 母子保健の充実
- 介護予防の充実

### ● 食による健康づくり

### ● 地域の保健福祉推進基盤の強化

## 2 福祉

### ● 児童福祉(子育て支援)の充実

- 子育て支援の充実
- 子育て交流活動の充実
- 子どもの生命・人権を守る取組みの強化
- 就学前教育保育の充実(保育所)
- 保育所施設等の維持管理・更新

### ● 高齢者福祉の充実

- 介護予防の充実(再掲)
- 基幹的な高齢者福祉サービス(介護保険事業等)の確保と適正な制度運用
- その他高齢者生活支援サービスの実施
- 認知症支援対策の推進
- 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進

### ● 障がい者福祉の充実

- 障がいの予防と早期発見・早期対応
- 障がい福祉サービスの充実
- 社会参加の促進
- 障がいと障がいのある人への理解促進
- 教育・育成支援の充実

### ● 地域福祉の充実

- 福祉ボランティア活動の促進
- 災害時等における対策の強化
- 低所得者等の自立支援
- 地域の保健福祉推進基盤の強化(再掲)

### ● 福祉のまちづくり

- (ユニバーサルデザインの推進)
- 生活環境の改善
- 自由な行動の確保

## 3 医療

### ● 経営基盤の整備

- 町立医療施設の経営改善
- 医師・看護師の確保
- 高度医療機関等との連携

### ● 地域医療の推進

- 予防を重視した保健医療の推進
- 地域包括医療(ケア)の推進

### ● 医療保険制度の充実

- 国民健康保険事業の適正運営
- 後期高齢者医療事業の適正運営
- 福祉医療制度の充実

## 4 安心・安全

### ● 危機管理体制の強化

### ● 防災体制の充実

- 消防団組織の充実・強化
- 消防施設の整備・充実
- 常備消防の充実と連携強化
- 情報連絡体制の充実
- 地域自主防災組織等の確立
- 町民の防災意識等の高揚

### ● 交通安全対策の推進

- 交通安全運動の推進
- 交通安全施設の整備

### ● 防犯対策の強化

- 防犯の推進
- 地域防犯力の強化

### ● 消費生活の安心・安全の確保

※ユニバーサルデザイン：「ユニバーサル=普遍的な、全体の」という意味が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいなどにかかわらず、あらゆる人が利用しやすいように製品や都市環境・生活環境などをデザインするという考え方。

※地域包括医療(ケア)：治療(キュア)だけでなく、保健(健康づくり)、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護まですべてのサービスを包含する全人的医療を行うもの。

# 魅力

魅力ある産業をはぐくみます

# 潤い

豊かで美しい環境を守ります

## 1 農林水産業

### ●農業の振興

- 農業振興に関する各種計画の策定
- 売れるコメづくりの推進
- 担い手の確保(農業後継者の育成)
- 認定農業者の育成
- 営農組織の育成
- 農地の保全
- 有害鳥獣対策の推進
- 農業生産基盤の整備
- 畜産の振興
- 家畜伝染病の予防強化
- 耕畜連携の推進
- 農業関係団体との連携

### ●林業の振興

- 森林整備計画と森林施業計画の推進
- 担い手の確保(林業後継者の育成)
- 森林の保全と育成
- 森林資源の有効活用
- 林業生産基盤の整備
- 治山対策の推進
- 林業関係団体との連携

### ●水産業の振興

- 内水面漁業の振興

### ●京丹波高原ブランド化の推進

- ブランド産物(品)の確立と生産促進
- 生産・流通・販売基盤の整備
- 地域特性に合った食材・加工品の生産促進
- 観光交流との連携  
(グリーンツーリズムの推進)

## 2 商工業

### ●商工業の振興

- 商工業の経営安定
- 地域産業の育成
- 商店(街)の活性化
- 中心市街地活性化

## 3 観光交流

### ●観光交流の推進

- 観光資源の発掘・整備
- 観光交流ネットワーク化の推進
- 産業等連携による複合型観光交流の推進
- 情報発信・宣伝の充実
- 体験型イベント等による交流の推進

## 地球と人にやさしい環境

### ●環境保全

- 自然環境等の保全・活用
- 環境監視体制の強化
- 地球温暖化防止対策の推進
- 新エネルギーの導入・活用推進
- 環境にやさしい産業の推進

### ●環境衛生

- 資源循環型社会づくり
- 適正なごみ等の処理
- 環境美化活動の推進
- 公害等防止対策の強化

※グリーンツーリズム：緑豊かな農村地域において、その自然・文化・人びととの交流を楽しむ滞在型の余暇活動。野菜市での農産物の購入などの日帰り型の滞在から宿泊を伴う滞在まで、さまざまな体験・交流を通じた旅行を幅広くいう。

※新エネルギー：現在、エネルギー資源の主力として利用されている石油などの化石燃料や原子力に対し、新規に発見されたり、技術進歩により見直されるようになったエネルギー資源。

## にぎわい

人が暮らす、集う、定住・交流の基盤をつくります

### 1 定住基盤

- 働く場の確保
- 住宅・住環境の整備
  - 住宅マスタープランの策定
  - 町営住宅の総合的な活用
  - 民間住宅供給の適切な誘導
  - 安全な住宅で安心な住まいの確保
- U/Iターンの促進

### 2 水資源・上水道

- 水資源の確保
- 水の安定供給
- 水道事業の健全経営

### 3 下水道等

- 下水処理施設の整備と水洗化の促進
- 下水道事業の健全経営の確立

### 4 情報通信

- 情報通信ネットワークの構築
  - 情報基盤の充実
  - 情報施設等の高度利用と内容の充実
  - 電子自治体化の推進

### 5 道路・交通

- 道路の整備
  - 京都縦貫自動車道(丹波綾部道路)とアクセス道路の整備
  - 広域幹線道路の整備
  - 地域内主要連絡道路の整備
  - 生活道路の整備(町道・農道等)
  - 道路環境の向上(道路の維持管理)
- 公共交通の充実
  - JR山陰本線の輸送力増強等
  - 町営バス運行の充実
  - 公共バス路線維持対策の推進

### 6 河川

- 河川の整備

### 7 土地利用

- 土地利用
  - 計画的な土地利用の推進
  - 土地利用の規制・誘導の適正な推進
- 都市計画の推進
  - 都市計画マスタープランの策定
  - 都市計画道路の整備
  - 公園・緑地の整備・活用

### 8 交流基盤

- 拠点地区の整備
  - 中心拠点地区の整備
  - 地域拠点地区の整備
- 交流拠点の充実
  - 既存交流拠点の強化
  - 新規交流拠点づくり

## 地域力

まちづくりのしくみをつくり、強めます

### 1 協働のまちづくり

- 住民自治の推進
  - 住民自治意識の高揚
  - わかりやすい町政の推進
  - 町民の一体感等の確保
  - まちづくりへの町民等参画の推進
- 協働のまちづくりの推進
  - 推進組織の育成
  - 住民自治組織等の育成
  - 「丹波高原文化の郷」づくり推進組織の育成
  - まちづくりへの町職員参画の促進
- コミュニティの育成

### 2 行政運営

- 行政機能の強化
- 財政基盤の強化
- 広域連携の推進
- 民間活力の導入
- 産学公連携の推進

※U/Iターン：Uターン・Jターン・Iターンの頭文字を取ってきた言葉。Uターンとは、都会へ出た後、出身地に戻る。Jターンとは、都会に出た後、出身地の近隣地域に戻る。Iターンとは、出身地にかかわらず、住みたい地域を選択し移り住むこと。

※電子自治体：自治体の公共工事などの業務発注や住民票登録などの各種手続き、行政文書の管理などにコンピュータシステムやインターネットを活用すること。



京丹波町

京丹波町総合計画 概要版  
基本構想／平成19年 3 月策定  
基本計画／平成19年10月策定

発行／京丹波町●平成20年2月  
編集／京丹波町企画情報課